

連載

白内障について①

～医療報告～

三戸呂 克美

年齢を重ねると体に色々な障害が発生します。特に鍛えようが無い個所に発生するとその障害を受け入れなければ治療が出来ないのです。今回私がこんなに早くなるとは思いませんでした。「白内障」について報告します。

白内障と違うかな？と思いはじめたのは褥瘡の治療のため入院中(県リハ病院)の時でした。片目で見ると右目がボンヤリと見え始めたのです。左目は正常に見えていました。

何となくの状態だったのでさほど気にはしていませんでした。両眼で見ると全くと言って良いほど普通？に見えるのです。退院後しばらくは生活をしていたのですが、いつの間にかレース越しにみる様な見え方に変ってきたのです。ホント！良く言われるようにレースのカーテンか、ティッシュを眼に当てて見た状態になり、すぐに家の近くの眼科を受診したら白内障と診断。最近では日帰り手術も出来るというので眼科の医師に聞いたら、三戸呂さんの場合は入院して手術、治療になりますとのこと。僕の電動車椅子はティルトになるのでベッドに上がらなくてもいいですよ、と胸を張って言ったら、手術はそんなものではありません、と一喝食らわれました。(何も知らない事は怖いのです。)

一度受診して状態を検査してもらって下さいとか、入院は1週間ぐらいでしょう、などの話を聞き入院出来る病院を紹介してもらいました。と、ここまではこれまでの経緯を述べましたが、私はどうして白内障になったのか疑問でした。思い当たる事は入院中横向きの状態でテレビを見ていた事で無理な姿勢になり眼にストレスがたまりそれになったのだろうか、などと考えていました。

ここで、“白内障について”説明しましょう。説明は以下のホームページに詳しく出ているので引用させていただきます。

《<http://www.asahi-net.or.jp/~pd2k-nim/sub1.htm>》

白内障とは、眼の中のレンズの役割をする水晶体が濁ってしまう病気です。白内障は、加齢に伴って発生する場合は最も一般的で、早ければ40歳から発症し、80歳を超えるとほとんどの人が何等かの白内障の状態にあるといわれています。白内障は、放置さえしなければ基本的には失明する病気ではありません。しかし一度発症すると、薬では治りません。薬剤は、白内障が発生する前に予防をするか、発症した初期に抑制することが出来ますが、最終的には手術をする以外の方法はありません。

(第2章に続く)